

メタセコイア

(土屋中学校の樹)

<学校教育目標>
夢に向かって

～生徒には夢を 保護者には感動を 職員には技を～

第9号

令和6年1月9日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋1766-1

TEL 048-622-4611

tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

生きること

～大切なのは、人とともに生きること～

校長 澤田純一

年の瀬は自宅にてバイク磨き、クルマ洗い、そしてプルトのシャンプーと一年の垢落しをしました。そして、除夜の鐘をききながら氏神（地域に住む人が信仰する神）である近所の氷川神社に、妻とプルトと初詣に行ってきました。深夜にもかかわらずそれほど寒くなく穏やかな新年の幕開けとなりました。今年、私は5回目の年男（辰年）になります。よって新年に対する思いが違うのです。ところで、辰・龍・竜と表記しますが、干支では辰と書き3月に春を迎え農業の時季となり、草木が芽を出し蕾が整った様を表現しています。ちなみに、龍は想像上の動物でドラゴンですね。竜は龍を簡単にしたものであり常用漢字として使われます。また、創造物として西洋のドラゴンは竜、東洋のドラゴンは龍と表すことが通例です。そのようなことから、よい年を願い、是非とも昇龍で行きたいですね。

それはさておき、元旦より平静なる暖かな一年が始まりました。私は訪ねてきた旧友と昔話を懐かしみながら和気あいあいと時を過ごしていました。「やはり旧友はいい。」と思った時、緊急地震速報が鳴り響きテレビをつけると能登半島で震度7を計測する大地震が発生していました。次第に被害状況が明らかになり、その中でも修学旅行で訪れた能登島では大橋に亀裂が走り孤立した状態であるとのこと、食料や燃料など生活物資が届けられなくなっていました。私は能登島で4組の生徒と海釣り体験をしたのですが、お手伝いいただいた地元の漁師さんの顔が目に浮かびました。もちろん、それだけではありません。バスのドライバーさんやガイドさん、金沢国際ホテルの皆さんなど温かく優しく生徒に接していただき多くの思い出をつくっていただいた方々の安否が気になって仕方ありません。寒くないか、腹は減ってないか、どうぞ生き抜いてくださいとの思いで元旦より過ごしています。

本来ならば、海を渡り駆けつけたいのですが、それもできません。そこで、生徒の皆さん、力を貸してほしいのです。毛布、トイレトペーパーなど送るもよし、募金活動をするもよし。北陸の人のために何かできることを考え、私とともに行動してほしいのです。被災した方の中には皆さんと同じ中学生や、もっと小さい子どもたちもいます。少しでも力になれることがあるはずです。ともに考えましょう。

そしてもしかすると皆さんの長い人生において地震や台風などの災害にあうことがあるかもしれません。どんなことがあっても生き延びること。それも一人ではなく家族や友人とともに生き延びること。それを忘れないでください。そのためにも、知・徳・体をバランスよく身につけることが必要です。この土屋中はそのために存在しています。鍛えましょう。新年の挨拶ですが少しでも皆さんの心に響けば幸いです。よい年になりますように。そして、保護者・地域の皆様、本年もよろしくご願い申し上げます。